



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

3. モモ新品種「白皇」、「白露」の導入効果の試算

[要約]

品種組合せモデル作成支援ツールを活用して新品種「白皇」及び「白露」を追加導入した場合の経営試算を行うと、県内の標準的モモ品種構成モデルに対して、5月から9月中旬までの半旬別労働時間のばらつきが小さくなり、農業所得は約180万円増加する。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 情報

[背景・ねらい]

岡山白桃のシリーズ化を目的に育成されたモモ新品種は、生産現場では様々な既存品種と組合せた栽培が行われるが、収益性が判然としないことや作業の競合が生産拡大の制限要因になると考えられる。このため、農業所得の向上や労働分散が可能な経営モデルの提示が望まれる。そこで、本年度作成した品種組合せモデル作成支援ツールを活用し、既存の品種構成モデルと新品種を追加導入したモデルとを比較して新品種導入の有利性について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 既存の品種構成モデルでは、自家労働2名、雇用労働3名（日給10,000円）の労働条件において、「さきがけはくとう」3a、「加納岩白桃」5a、「白鳳」10a、「清水白桃」25a、「おかやま夢白桃」10a及び「白麗」10aを想定しており、栽培面積は合計63a、農業所得は約380万円である（表1）。
2. 新品種導入モデルは、既存の品種構成モデルと同じ労働条件で、「白皇（岡山PEH7号）」12a及び「白露（岡山PEH8号）」10aを追加で栽培可能であり、栽培面積は合計85a、農業所得は約560万円である（表1）。
3. 新品種導入モデルは、仕上げ摘果や袋掛け時期である6月1半旬などの労働時間は増加するが、雇用で対応可能な範囲内であり、5月から9月中旬までの半旬別労働時間のばらつきが小さい（図1）。

以上の結果から、県内の標準的な品種構成を維持しながら、着果管理や収穫時期の異なる「白皇」及び「白露」を追加しても、半旬別の労働時間の上限を超越することなく栽培が可能であり、農業所得の向上効果も大きいことが試算された。

[成果の活用面・留意点]

1. 「白皇」は開花、結実判断が早くできるため早期に予備摘果が可能であり、「白露」は予備摘果を省略できるため、作業競合しにくく面積拡大しやすい。
2. 「白皇」及び「白露」は、岡山県内で栽培可能で、当面、県外へ苗木は供給しない。
3. 半旬別労働時間は、生育の前進や後進など気象条件によって前後する。
4. 他の品目（水稻、ブドウなど）との作業競合については未検討である。



[具体的データ]

表 1 モモの品種組合せモデル作成支援ツールによる新品種導入モデルの農業所得内訳

品種	さきがけはくとう	加納岩白桃	白鳳	清水白桃	おかやま夢白桃	白麗	白皇	白露	既存品種モデル合計 ²	新品種導入モデル合計 ²	
栽培面積	a	3	5	10	25	10	10	12	10	63	85
粗収入		410,400	693,500	1,537,500	4,738,800	2,161,500	2,100,820	2,029,632	11,642,520	15,594,152	
種苗費		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
肥料費		11,316	18,860	37,720	94,300	44,490	44,490	53,388	251,176	349,054	
農業費		17,211	28,685	57,370	143,425	57,370	57,370	68,844	361,431	487,645	
光熱水費		5,583	9,305	18,610	46,525	18,610	18,610	22,332	117,243	158,185	
諸材料費		18,951	31,585	63,170	169,825	70,990	70,990	85,188	425,511	581,689	
小農具費		525	875	1,750	4,375	1,750	1,750	2,100	11,025	14,875	
貸借料・料金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
水利費		900	1,500	3,000	7,500	3,000	3,000	3,600	18,900	25,500	
共済掛金		2,472	4,120	8,240	20,600	8,240	8,240	9,888	51,912	70,400	
荷造・包装費		116,079	193,465	386,930	851,250	386,930	355,970	408,600	2,290,624	3,086,154	
運賃		14,064	23,440	46,880	103,125	46,880	43,130	49,500	277,519	373,899	
販売手数料		45,144	76,285	169,130	521,275	237,770	231,100	223,260	1,280,704	1,715,384	
小計		232,245	388,120	792,800	1,962,200	876,030	834,650	926,700	5,086,045	6,862,425	
雇用費									128,000	208,000	
減価償却・修繕費									2,615,693	2,933,287	
合計									7,829,738	10,003,712	
農業所得									3,812,782	5,590,440	

² 既存品種モデル合計は、「さきがけはくとう」、「加納岩白桃」、「白鳳」、「清水白桃」、「おかやま夢白桃」及び「白麗」の合計値を示す
³ 新品種導入モデルは、既存品種モデルに網掛け部分（「白皇」及び「白露」）の数字を加えた合計値を示し、両品種の粗収入は「川中島白桃」の販売単価より試算した

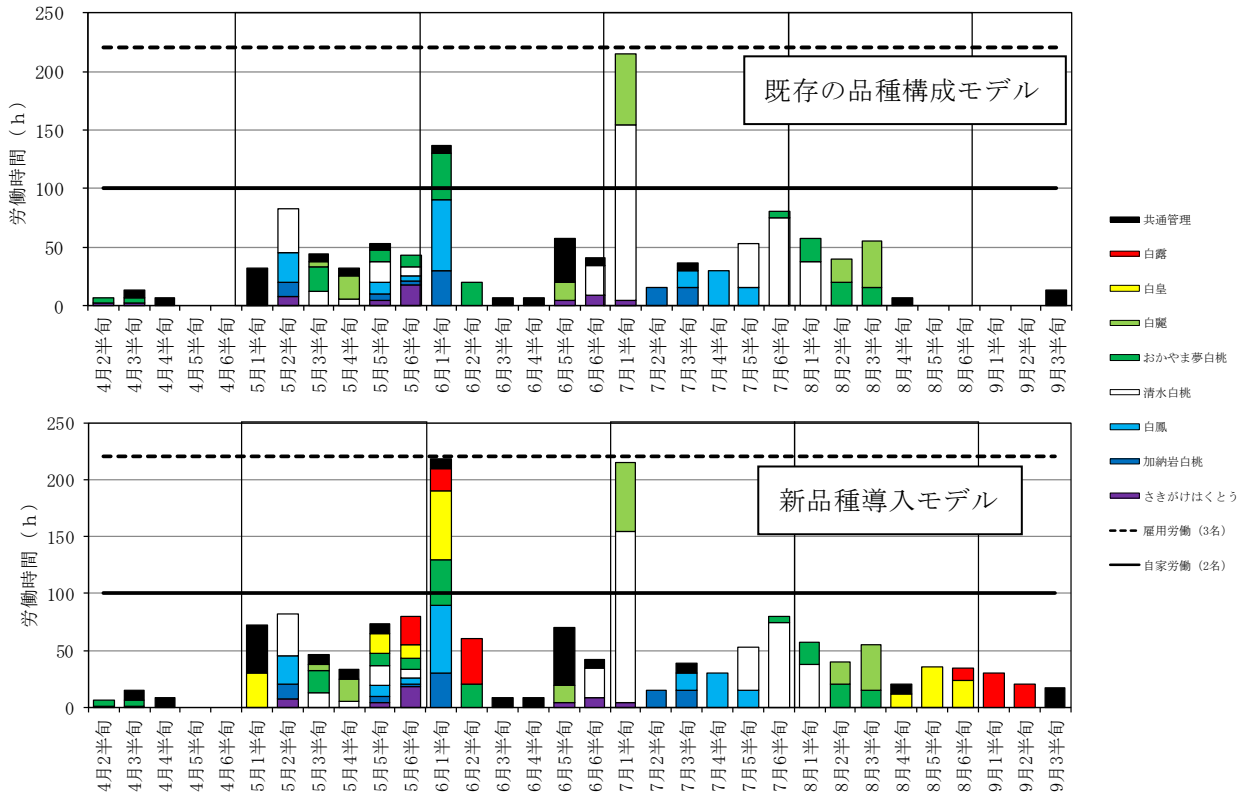


図 1 既存の品種構成モデル（上段）及び新品種導入モデル（下段）の半旬別労働時間²

² 図中の実線は自家労働（2名）、破線は雇用労働（3名）の半旬別上限を示す

[その他]

研究課題名：モモのオリジナル新品種の高品質安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2012～2020 年度

研究担当者：樋野友之、井上智博、荒木有朋、鷗木悠治郎、河村美菜子

関連情報等：1) [平成 29 年度試験研究主要成果、7-8](#)

2) [平成 30 年度試験研究主要成果、17-18、19-20](#)